

「リエゾンシニア」が、新たな価値創造で、伝統技術と消費者との間を繋ぐ②

「リエゾン（繋ぐ）シニア」と

「愛媛の経営者」との出会い

前月号で紹介した、大手消費財メーカーで長年「技術の翻訳者」として活躍してきた「リエゾンシニア」の稲村浩二さんと、愛媛の伝統資源であるシルクの可能性を拡げるべく「愛媛シルクプロジェクト」を推進するユナイテッドシルク社の河合崇社長とが、初めて出会ったのは2020年11月のことであった。

松山市がパソナJOB HUBへ委託している都市部人材と地域企業を複業・兼業でマッチングするプロジェクト「だんだん複業団」の現地視察プログラムにオンラインで参加していた稲村さんが、河合社長のシルクへの熱い思いを知り、「シルクの美容・健康食品としての優れた機能性を消費者へ伝える」提案書を書き上げたことから、二人は急接近することとなった。

「シルクサミット2021 in

愛媛」での成果報告

当時のことを河合社長は「なぜ、シルクが美容用品や健康食品としての可能性が高いのか。稲村様の提案書は、稲村様が長年にわたって蓄積された知見とノウハウをもとに、民間企業の立場と発想でシルクの機能性を証明し、商品化する内容でした」と振り返った。

稲村さんも、「シルクは未知の材料なので、最初に研究レビュー要約に加え、最新の臨床論文や関連文献を100本程度読んだ。そのうえで、自分が蓄積してきた

知見に基づいて消費者ニーズが高く、機能性の証明ができる可能性が高い分野に商品開発テーマを絞り込むことができた」と語る。

昨年夏に完成したショールームに、第一段階として完成した美容・食品群が並び、更に機能性を高めた商品の開発に取り組んでいる。



稲村浩二さん(左)、河合社長(右)

「リエゾンシニア」のモチベーション

とは

稲村さんは仕事に対する想いをこう語る。「自社の技術や素材の活かし方、消費者への伝え方を追求できていない中小企業も多いのではないかと。伝統ある技術や素材が埋もれたままなのはもったいないし、自分が長年培ってきたことを、社会のため

に還元できたら大きな喜びである」また、「そのために人を雇わなくても、自分のような外部人材を上手く活用するのも方法ではないか」。

出会いのきっかけを作ったパソナJOB HUB ソーシャルイノベーション部長の加藤遼氏は「新しい働き方や地方創生の機運が高まる中で、今回のような地域企業と複業人材のマッチングは益々増えている」と今後の期待を語った。定年後研究所も「リエゾンシニア」が日本の社会や会社を元気にしていく姿を追ってきたい。

池口武志(いけぐち・たけし)

一般社団法人定年後研究所理事所長

1963年生まれ。1986年日本生命保険相互会社入社。現在、株式会社星和ビジネスリンク取締役常務執行役員、キャリアコンサルタント(国家資格)としても活動中。



一般社団法人定年後研究所

人生100年時代の中で、中高年社員のセカンドキャリアの充実に向けた調査活動を展開中。定年前後からの自走人生にチャレンジする会社員と、それをサポートする企業を応援。当記事へのご意見ご感想を、ポータルサイト <https://www.teinengo-lab.or.jp>「お問い合わせ」にお寄せください。

当ページのバックナンバーは、上記サイトをご覧ください。